

第6回 日本免震構造協会賞 - 2005 -

第6回 日本免震構造協会賞は、右に記す諸氏及び作品を表彰することに決定した。

表彰制度の目的

免震構造の技術の進歩及び適正な普及発展に貢献した者並びに建築物を表彰することにより、免震技術の確実な発展と安全で良質な建築物等の整備に貢献していくことが本協会の表彰制度の目的である。

表彰の対象

功労賞は、多年にわたり免震構造の適正な普及発展に功績が顕著な者に、技術賞は、免震建築物の設計、施工及びこれらに係る装置などについて研究開発により優れた成績をあげた者にそれぞれ贈る。作品賞は、免震構造の特質を反映した、優れた建築物とする。

表 彰

2005年6月9日

(社)日本免震構造協会通常総会後

(社)日本免震構造協会表彰委員会委員

五十殿侑弘 (委員長) 小幡 学 神田 順
仙田 満 村井義則 六鹿正治

審査経過

本年度の日本免震構造協会賞の応募状況は、技術賞4件、作品賞11件の計15件であった。功労賞への応募はなかった。

技術賞は免震の設計手法の研究・開発に関するものと、免震技術の適用により、従来不可能とされてきたRCプレキャスト構造の高層化を実現化した事例等4件の応募があった。

作品賞は名のある大型作品が多数含まれての大激戦であった。以前なら、どれが選ばれても当然と思われたものが多数みられた。逆に言えば、ただ単に免震構造の特質を反映しているというだけでは、過去の受賞建物の類似作品の域を出ていないという厳しい評価に甘んじざるを得ない程の、つづぬいであったというべきであろう。文字通りの審査員泣かせではあるが、それだけ日本の免震建築のレベルが上がり、着実に普及の段階に入った証とも言えよう。

審査員には15件の全応募作品の提出書類を届け、事前に十分な時間をかけて内容を吟味、精査してもらった上で、本年1月中旬に第一回表彰委員会を開催した。

選 考 結 果

第6回 日本免震構造協会賞受賞は下記の5件である。

I 技術賞

- 1) 履歴減衰型免震部材の統一的復元力モデルの開発
北海道大学 菊地 優、山本祥江
清水建設株式会社 北村佳久、猿田正明、田村和夫
- 2) フリープラン・長寿命・高耐久を実現した日本初の超高層PCaPC免震建物
鹿島建設株式会社 上野 薫、堀内一文、丸山 東
荒木修治
小田急建設株式会社 武菱邦夫

II 作品賞

- 1) マブチモーター本社棟
マブチモーター株式会社 亀井慎二
日本アイ・ビー・エム株式会社 関 幸治
株式会社日本設計 三町直志、大坪 泰
清水建設株式会社 早川 修
- 2) 清水建設技術研究所新本館
清水建設株式会社 矢代嘉郎、並木康悦、神作和生
斎藤利昭、折原信吾
- 3) 九州国立博物館
株式会社菊竹清訓建築設計事務所 松里征男
株式会社久米設計 千馬一哉、油田憲二
鹿島建設株式会社 大野隆久
大成建設株式会社 加藤幸信

(敬称略)

委員会では各自の事前検討結果を踏まえての議論がなされ、第一次書類選考として、技術賞3件、作品賞6件が最終候補として満場一致で採択された。

技術賞については、各候補者からヒアリングを行い、耐震部材を統一的に表現できる復元力モデルの開発と、RCプレキャスト部材の圧着工法による超高層化を我が国で初めて実現した作品の2件が選ばれた。

作品賞については、2月・3月、計4回にわたって6件の候補作品について現地審査を行い、3月後半開催の最終選考委員会において、3件が満場一致で採択された。

プレキャストRC部材で構成された33mの大空間を有する研究開発施設、6本の柱よりなるスーパーストラクチャーで構成される技術研究所、巨大シェルターに内包される博物館の3点が選ばれた。いずれも免震構造の特質を反映した斬新な作品と言えよう。

なお、審査に当たっては公平を期すため、応募作品に関係する委員は、審査から外れてもらうこととし、厳正を期した。(五十殿 侑弘)